

## 第1回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和元年6月9日（日） 14時～15時30分
- 開催場所 布佐南近隣センター
- 参加者 11名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長  
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職15名
- 懇談要旨

市民：排水区の工事の事ですが、工期が6月末まで延びるとのことでしたが、5月31日は電線の工事のようでした。工事を行う前に東京電力さんと話をしておけば、2ヶ月半も伸びなかったと思いますが、どうなのでしょう。また、6月30日までの延期の理由は何でしょうか。どうしてこのような話をするかと言いますと、隣が民家で3月15日終わると言っていた中での延長は、ストレスが溜まると思います。まだ工事現場と民家の間に3mのフェンスでもあれば、音も遮断できて近隣の方のストレスも少なかったのではないのでしょうか。今後の上流の工事にもこのことは、繋げられることだと思います。今回の工事は、全国でも珍しい工法だと聞いていますが、工事による沈下などで将来、隣家に被害が及んだ時の補償はどうでしょうか。

なお、工事に伴って、現在穴の開いているところがありますが、子どもが入り込んだら大変です。対策が必要ではないでしょうか。

建設部長：地域の皆さんにご迷惑をおかけしていますこととお詫びいたします。

本日は担当課長が来ておりますので、詳しくは課長からご説明させます。

治水課長：工期が遅れ、ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。電線の工事につきましては、おっしゃる通り、事前に協議していれば良い事であります。市としては事前に調整をしていましたが、うまく調整出来ず、このようになり申し訳ございませんでした。6月30日までの延期については、水路の設置は完了していますが、水路上面の整備で遅れが出ている状況です。こちらの都合ということで遅れてしまいまして、申し訳ございません。工法につきましては、元々矢板を打って、土止めをするつもりでしたが、水路の側に家屋があり作業スペースが狭いことから、矢板ではなく、機械自体に矢板と同じ機能がある工法で工事を行っています。将来の補償につきましては、将来の事は現段階でどうなるかは予測できませんので、現時点ではお答え出来ません。基本的には工事完了後、2、3月後に事後調査を行い影響を調べたうえで、それに対する補償ということ考

えております。

今後は、工期が遅れないよう、十分調整して工事を進めていきます。また、穴の開いているところは柵をするなり、蓋をするなり何らかの対応をしたいと思います。

市 民：夏休みまでにはやっていただきたいと思います。

治水課長：工期末までには完了させたいと思います。

市 民：これまで北海道から沖縄まで住んできて、ここ平和台に住み始めて30年以上になります。初めは非常にいい所だと思っていましたが、ただ、平和台のバス通りの歩道のアスファルト舗装に亀裂が入り、その亀裂に砂が入り、雑草が出てきて砂利道のようにひどい状況になっています。

建設部長：本日は、道路課長も来ております。この会が終了次第現地を確認し、必要な対応をしたいと思います。後ほど、場所を教えてください。

市 民：最近高齢者の事故が多いようで、私はアイバスに乗っていますが、その運営費は我孫子市で全額負担しているのでしょうか。また、免許証返納者への優遇制度は、私もいただきましたが、市で補助をしているのでしょうか。

市 長：免許証を自主返納されている方に、2年間、タクシーの割引券とバスの料金を半額にするという優遇制度は、市の方の負担とバスやタクシー会社の双方で負担しています。自主返納は皆様が加害者にならないこと、被害者を出さない事、それには、何らかの優遇措置を行わなければ、なかなか自主返納は出来ないのではないかとということで、返納の後押しをする意味で行っております。約2割の方が自主返納しておられますが、まだ返納されていない方もいらっしゃいます。あくまでも、免許証を取り上げるものでありませんので、ご家族とよく相談をしていただきたいと思います。

2年間の優遇制度を延長できないかという要望もありますが、東京都はそういった事を行って、大きな借金を抱える事になったという過去がありました。市としては、自主返納を後押しすることが目的であり、福祉目的ではないという主旨をご理解して頂きたいと思います。先日のふれあい懇談会では、車の維持費を考えると、免許証を返納してタクシーを利用しても、そんなに費用は変わらないと言っていました。そういった支出の部分も含めて皆様で御検討していただき、また家族でもお話をしていただきたいと思います。

市 民：知人が高齢になり免許を返納した。病院に行くのにタクシーに乗った時、料金が「高い。」と言ったら、「だったら、乗らなければいい。」と言われたそうです。タクシー会社の接遇の向上について、市からも指導はできないでしょうか。

市長：タクシー会社も社員が高齢化になってきているなかで、人材確保が大変な状況であると聞いております。かといっても、接客業ですので、お客様へは、しっかり対応しなければなりません。市からお伝えいたしますので、どこのタクシー会社か分かりますでしょうか。

市民：ちょっと分かりません。

市長：分かったら教えて下さい。市からも伝えます。

市民：工事の際の作業車などが道路などに駐車しています。工事車両の待機場所等も市で探すことはないのでしょうか。

治水課長：機材や工事作業車などは、基本的には業者さんが確保するものですが、工事がスムーズに行えるよう、市でも協力できるところについては、行ってまいります。

市民：資料の11ページで重点施策として公共施設の老朽化対策が載っていますが、布佐南近隣センターも30数年経っていて、まちづくり協議会として近隣センターの運営に携わってきました。高齢化もあって、今後のまちづくり協議会の在り方や利用者が少なくなっている中で、市の方として考え方などはありますか。

市民生活部長：近隣センターの運営については、これまでまちづくり協議会のみなさんにお世話になっております。今後も皆さんと密接な関係を保ちながら、協力しあっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

市長：市としても心配になってきております。高齢が進む中では、後継者不足もあり、建物と合わせて運営自体もどのようにしていくのか、課題だと思っております。ただ、そのような事態に直面していない地区もありますので、10年後はどうなるのか。また、まちづくり協議会だけでなく、学校も同様な状況です。東地区では各学年が1クラス。少数精鋭での教育が出来るという利点はありますが、集団生活を送るという点では、その機能が果たせなく、部活も成り立たない状況となっています。そのような中で、学校の建て替えが10年後ぐらいにはあると思っておりますが、どのような建て方にすれば良いのかが問われます。2棟を1棟にするとか、小中一貫にするとか、全ての学校にプールが必要か、など他の地域では検討が始まっております。プールについては、普通の水泳や着衣水泳指導を水泳指導のプロである民間に委託することで、学校がプールを所有することがなくなるという利点があります。これからの公共施設はいろんな物を同化してまとめ、近隣センターやまちづくり協議会も、今までと同じではなく、その時々にあった新たな運営方法を見つけていくべきであると思っております。